<＝シダ植物　デンジソウ科＞　　愛知県：絶滅危惧ⅠA類　（国：絶滅危惧Ⅱ類）
<＝PTERIDOPHYTA　MARSILEACEAE＞　　AICHI：CR　　（JAPAN：VU）

デンジソウ　*Marsilea quadrifolia* L.

【評価理由】

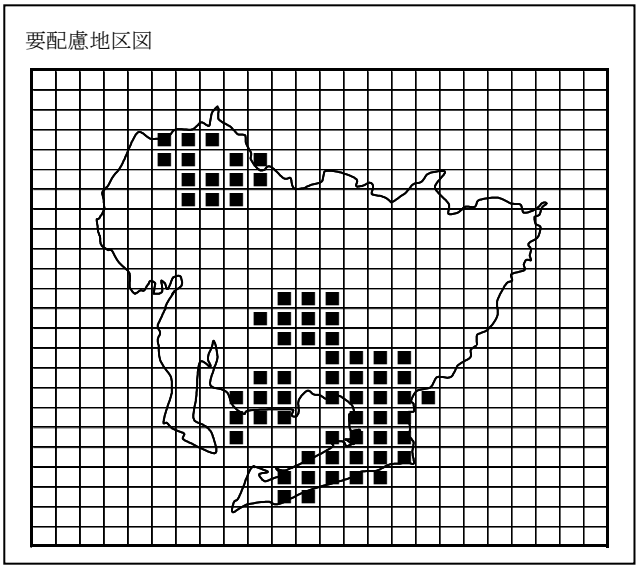
個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 17。全国的に減少傾向の著しい水生植物である。

【形　態】

夏緑性の水生シダ植物。根茎は細く、泥土上を長く横走して不規則に分岐する。葉柄は緑色で長さ 10～15cm、葉身は 4 つ葉のクローバーに似て直径 2.5～4cm、4 枚の小葉が「田」の字に並ぶ。小葉は倒三角形、上端はゆるやかな円形で両側面は直線に近く、基部は広いくさび形となる。葉柄の基部より少し上から出る短い枝に、長さ 4～5mm で豆のような形をした 1～3 個の胞子のう果をつけ、その中に数個の胞子のう群をつける。胞子には、雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】



1985 年以降では、13 豊川（小林 80551, 2003-11-16）、15 豊橋北部（芹沢 78856, 2003-9-20）、16 豊橋南部（瀧崎吉伸 15173, 1994-8-20）、17 田原東部（永田芳男 s.n., 1999-10-9）、29 岡崎北部（安達史幸 s.n., 2008-7-5）、36 西尾南部（芹沢 54125, 1989-11-2）、46c 江南（福岡義洋 5375, 2001-9-9）、48 春日井（村松正雄 14521, 1993-10-16）で採集されている。ただしほとんどの場所で、すでに絶滅した可能性が高い。12 新城（八束穂, 鳥居喜一 s.n., 1973-7-21）、18 田原西部（伊良湖岬, 河合匡彦 s.n., 1955-7-12）、30 岡崎南部（明大寺町, 神谷平 s.n., 1960-9-22）、50 名古屋北部（大形　昌 s.n., 1979-10-10）、56a あま（美和町丹波, 沢井輝男 s.n., 1932-8-9）で採集された標本もある。25 豊田北西部（芹沢 83818, 2008-11-5）にもあるが、ここは移入の可能性が高い。明らかに移入されたものは、51 名古屋南東部（芹沢 88945, 2013-9-29）などにも生育している。
かつては普通の水田雑草だったと思われるが、資料はあまり残されていない。

【国内の分布】

北海道・本州・四国・九州と奄美大島に生育していたが、近年減少傾向が著しい。

【世界の分布】

ヨーロッパ、インド北部～東アジア。

【生育地の環境／生態的特性】

水田やその周辺の水路などに生育し、水が浅いところでは挺水植物、やや深いところでは浮葉植物になる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草･岩				
湿地		○	○	
水域		○	○	

【現在の生育状況／減少の要因】

手作業の除草では容易に駆除できない植物であるが、乾田化の進行や除草剤の使用により激減した。どの場所も水田の転用や放棄によりすでに消滅している可能性が高い。上記の個体数階級と集団数階級は見込み値である。幡豆では谷戸田の耕作放棄による遷移の進行により絶滅した。

【保全上の留意点】

もともと水田雑草であるから、湿田状態を維持し、除草剤を使わない水田耕作を続ければ確実に保全できる。福井県敦賀市では、農家の人が、「ワシは長年こいつに苦労してきた。こんなものを保護するのか！」と目をむいたそうである。しかしながら、人間が本来の生育地を全て奪ってしまった平野部の植物を保全するためには、継続的な人為的管理が必要である。開発を阻止し、自然のままに放置すればこと足れりというわけにはいかない。

【特記事項】

カタバミモの名もある。

【関連文献】

保シダ p.170. 平シダ p.283, 学シダⅠp.334, 環境省 p.370, SOS 旧版 p.42, SOS 新版 p.114,116.
倉田 悟･中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 778–782. 東京大学出版会, 東京.